

いしかわ里山塾(輪島班)

団体名●いしかわ里山塾(輪島班)／代表者名●小河久志(人文学部准教授)

はじめに

豊かな里海に囲まれた輪島市の海女は、素潜りによる漁撈技術が国の重要無形民俗文化財と世界農業遺産に登録されるなど、その社会文化的重要性が国内外に広く認知されている。輪島市を中心とする石川県の海女の数は、全国1位の三重県に次ぐ200人を誇り、他県と異なり長らく大きな変化を見せていない(石川県2014)。しかし輪島市は、人口減少と高齢化が急速に進んでいる。海女文化を含む輪島市の里海を保全していくためには、その担い手となる若い世代の確保と育成が不可欠である。

本活動は、学生が調査等を通して里海という輪島市が持つ地域資源の魅力とそれが抱える課題について理解を深めること、上記の知見をもとに作成した教材を用いて輪島市の子どもたちが里海の大切さを知り、地域に対する誇りを持つこと、を目的としている。

活動内容

金沢星稜大学と石川県立大学の学生が、主に以下の活動を行った。

- ①文献調査：先行研究の読解を通して、輪島市の海女や能登の里山里海に関する情報を収集した。
- ②フィールドワーク：輪島市舳倉島で海女を対象とした聞き取り調査と参与観察を行い、海女漁の現状と課題、課題の解決策、食をはじめとする海女文化等について情報を集めた。
- ③出前授業：輪島市立鳳至小学校で、輪島市の里海をテーマとした手作りかるた(里山かるた)を児童(5年生41人)と学生で行った(写真参照)。かるたは、海女漁や輪島市で採れる海産資源等を題材に児童と学生で読み札を考え、学生がそれをもとに絵札を作成した。

成果、結果の考察

学生は、上述した活動を通して里海を中心とする輪島市の地域資源の魅力と、それをめぐる課題について理解を深めるとともに、課題を解決するための方策を検討することができた。また、個人差はあれ読み、書き、話し、聞き、伝えるというコミュニケーションの総合的な力を向上させていた。出前授業の対象となった小学生は、学生の献身的なサポートもあり、主体的に授業に参加していた。また、「授業後、輪島市に誇りが持てたか？」という問いに、38人中35人の児童が「はい」と回答していることから分かるように、本活動の目的は一定程度、達成できたと考えられる。

今後の課題、展望

今回の活動を通して、出前授業で用いる情報の選択や小学生と学生の協働のあり方等について検討する必要があることが分かった。今後は、こうした課題を克服しつつ活動を継続していきたい。

参考文献

石川県2014『海女文化基礎調査報告書：輪島における素潜り漁及び関係する習俗の概観』



写真：出前授業で「里山かるた」をする学生と児童
(笹倉康弘氏提供)